



そう ぼう べん 僧帽弁閉鎖不全症ってなに?

どんな
病気?

心臓内にある僧帽弁(左心房と左心室を仕切る弁)に異常が起きてうまく閉じなくなること、心臓の血流が悪くなる(逆流が起こる)病気。

病気が進行すると、心臓が拡大して肺に水が溜まるなど、命に危険がおよびます。

シニアの小型犬に多く発症する心臓病で発症率ナンバー1と言われています。

おもな
症状

初期は無症状のことがほとんど。
進行すると咳などの症状が出ます。

- カッカッと痰を吐き出すような咳をする
- 寝起きなどで姿勢を変えると咳が出る
- 元気がない
- 階段の前で立ち止まるなど動きたがらない
- ガツガツ食べなくなった(食欲が落ちる)など



シニアの小型犬にとくに多く、
メスよりオスにやや多い傾向が

7〜8才ごろから発覚する犬が増え始め、ピークが9〜11才というシニアに多いのも特徴です。また、興奮や吠えの行動が心臓に負荷をかけるため、このような行動が出やすいオスは、メスよりやや発症しやすいと言われています。犬種による傾向があることから、遺伝的な要素もあると考えられます。

なりやすい犬種



チワワ



マルチーズ



ポメラニアン



シー・ズー



ヨークシャー・テリア



キャバリア・キング・
チャールズ・スパニエル

※チワワとトイ・プードルのミックスなど、小型の純血種同士をかけあわせた犬もなりやすいです。

おもな
治療

治療が必要な段階に入ったら
投薬をスタート。より根本的な治療には
外科手術が望ましい。

内科治療と外科治療があり、内科治療は、心臓の動きを助けたり、負担を軽減したりする薬を服用し、進行のペースを遅くさせる目的で行います。しかしながら、うまく閉じなくなった弁にアプローチするものではないため、治すことはできません。一方、外科治療は、手術でうまく閉じない弁を修復し、逆流しない状態にする根本治療です。通常、内科治療はステージB2から行い、外科治療の対象はB2の後半からです。

重症度によるステージ分類

ステージ	定義
A	将来「僧帽弁閉鎖不全症」になる可能性が高い犬種
B	僧帽弁の病変が認められ、逆流が生じている(心雑音あり)が、「心不全」の経験はない
B	1 心臓の拡大はないか、あっても軽度である
B	2 心臓の顕著な拡大が認められる
C	「心不全」の状態にいる、もしくは以前に経験がある
D	「心不全」のコントロールが困難な重症例(難治性)

出典:アメリカ獣医内科学会による犬の弁膜症ガイドライン

早期発見のコツ

行動や様子にあらわれる症状が出にくい段階でも、聴診で血液の逆流音(心雑音)に気づくことができます。早期発見のためにも、**年2回以上は動物病院で心臓の音をチェックしてもらいましょう。逆流音があれば、エックス線検査だけではなく、エコー検査による画像診断を受けましょう。**

いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込むと

2号 (2ヶ月分) **無料!!**

